

ダイオキシン汚染のない木材

当社の焼却炉はダイオキシン排出測定検査を受けています。

ダイオキシンは、ものの焼却過程等で発生する非常に毒性の強い物質です。環境中に広く存在していますが、排出量のほとんどは家庭ごみや産業廃棄物の焼却で発生すると推定されます。当社の焼却炉は、自ら設計し完成後40年以上経っていますが、定期的なメンテナンスと検査により、ダイオキシン発生量は国の基準の1,000分の1からゼロに近い数値です。

当社はダイオキシン汚染のない木材を使用しています。

当社の焼却炉で木材を焼却する際、ダイオキシン発生量がゼロにならないのはPM2.5などの大気汚染も影響するからです。PM2.5が影響を与えるように、薬剤散布で汚染された木材を焼却すると、ダイオキシン発生量は確実に増えます。当社の焼却炉から出るダイオキシン発生量は、当社の使用する木材がダイオキシンに汚染されていないことの証明でもあります。また、化学物質過敏症の方にも適した木材です。

これからも自然環境保護のため、

ダイオキシン発生量を抑制し続けます!

また、生産地にこだわり、

防虫のために薬剤散布された地域の木材は使用しません!

	2007年	2008年	2012年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
排気ガス	0.024	0.054	0.21	0.078	0.0000072	0.0000082	0.29	0.048
煤じん	0 (<0.077)	0 (<0.08)	0 (<0.04)	0 (<0.033)	0 (<0.04)	0 (<0.04)	0 (<0.04)	0 (<0.04)
燃え殻	0 (<0.079)	0 (<0.08)	0 (<0.04)	0 (<0.033)	0 (<0.04)	0 (<0.04)	0 (<0.033)	0 (<0.033)

2007年(H19)・2008年(H18)は松クイ虫を防除した赤マツ材を焼却、2012年(H24)は薬剤に汚染された栗の木を焼却したため、排出ガス量が増加しています。いずれも国の基準値は大幅に下回っていますが、このように薬剤に汚染された木材はダイオキシンの発生量が増えることがわかります。検査時の燃焼温度は600~850℃です。1,000℃の燃焼温度でダイオキシン発生量はゼロになりますが、当社の焼却炉は600~850℃の温度でほぼゼロに近い数値となっています。



焼却炉外観

桜井木材建築株式会社

〒950-1214 新潟県新潟市南区上下諏訪木107 TEL.025-373-2325

桜井木材建築

